
空の刀が目指すは雷の神 外伝 正義の殺戮者

霊宮空刀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空の刀が目指すは雷の神 外伝 正義の殺戮者

【Nコード】

N1725X

【作者名】

霊宮空刀

【あらすじ】

FAIRYTAIL 空の刀が目指すは雷の神で聖夜が気まぐれにおとしたガイアメモリ。その使い手は一体、何を見て、何を糧に生きるのか

データ1 物・語・開・始（前書き）

タイトル変更

データ1 物・語・開・始

side??

はあ・・・はあ・・・はあ・・・なんなんだよ・・・あの変な奴は！？変なメモリを体に刺したと思えば変な仮面かぶって！？逃げなきゃな・・・真正面からやりあったら数で押されて俺の負けだ・・・でもこのままいけば行き止まり・・・どうすればいいんだよ！！

side out

side 第三者

この事の起こりは1時間前にさかのぼる

彼は学校の放課後、とある廃工場に忍び込んでいた。理由は簡単だ。家に帰りたくないからである。彼の家は親が墮落した生活を送り、彼が汗水たらしてバイトをした金で遊び暮らしていた。だから彼は友達の家を泊まり歩くようになった。そのたび親は反省したふりをして、働くことを強要している。だからだ

side??

「さてと・・・玲人とかは親も事情分かっているから泊まりやすいんだけど・・・迷惑かけたくないし

な・・・今日はここで寝るかな」

玲人とは神山玲人のことである。俺の親友で、弟の神山零時とも兄弟のように仲が言い。しかし、3日連続はさすがに駄目だと思い、ここに泊まろうと思った。

「それにしても・・・変な物音するなあ？」

ギシィ・・・ギシィ・・・と軋むような音がしている。俺はその音源を探ることにした。そして、その音源を探り当てたのだが・・・

USBメモリ、ガイアメモリと変な形の機械、ロストドライバーを手に取る。

「なるほどな………」

俺の目の前には変な集団が迫ってきた。いっちょやってやりますか！！命がけだしな

『GENOCIDE!!』

掛け声はこいつしかない。俺が尊敬するヒーローの！！

「変身！！！」

俺はロストドライバーのメモリを入れるほうにジェノサイドのメモリをいれ、右側に倒す。

『GENOCIDE!!』

そして俺の体は血のような装甲に包まれ、そこに立っていたのは

「俺の名は……仮面ライダージェノサイド。さあ……殺戮タイムだ」

俺はそういうと集団の中へと入り、手当たりしだいパンチとキックを決める。あいつらは意外と弱いのか、すぐに全員を倒し終わってしまった。

「正義……か……」

とりあえず俺は荷物を取りに廃工場へと戻った

主人公のデータ（前書き）

主人公のデータです

主人公のデータ

名前：慈円 炎忌 じえん えんき

年齢：16歳

学年：高校一年生

容姿：灼眼のシャナの佐藤啓作の髪の毛、瞳を赤色にした感じ。意外と女子の間では人気。リア充ではない

持っているメモリ：ジェノサイド 殺戮の記憶

性格：親友や信頼できそうな人以外は信用しない。親のせいで人間不信気味

魔力：SSランクなのは並み

デバイス：テンペスタ

デバイスを手に入れた経緯：たまたま神山玲人からもらった。零時の友達の親が作り上げたものらしい。

魔力が多いわけ：生まれつき

紹介：高校一年生で、とある廃工場でジェノサイドのメモリとロストドライバーを手に入れたときから物語は動き出した。親が墮落しているため、あまり人、特に大人を信用しない。動物で好きなのは狼。なぜならかつこいいから。信用できるのは神山家の人々だと公言している。一部ではBLとか言われている。しているバイトは神山父の運送会社の下働き。トラックは運転しないが力が強いので重いものを持ち運べる。だから重宝される。真面目に働いているから給料も2割増し。

管理局との関係：特になし

機動六課と会う確率：本編はもう始まっているのでかわらないと思う。世界観を使用しているだけなので

名前の由来：慈円、じえ、じえ、ジェノサイドというわけです。こじつけに近いかな？

炎忌 赤色↓炎、忌↓忌み嫌われるという為

以上です

慈円「人気出るかな」

霊宮「出ない」

慈円「言うなそれを。つーか管理局には出くわしたくない。お前原作知ってんのか」

霊宮「知らん」

慈円「駄目だこりゃ」

霊宮「他の人の二次創作を読んで補完します」

慈円「次回もよろしく」

データ2 殺・戮・青・年（前書き）

フォーゼタイトルみたいですネ。ついでに主人公狂キャラかも・・・
グロ描写あり、苦手な人はG O t o b a c k

データ2 殺・戮・青・年

side 炎忌

俺は廃工場につき、荷物を回収した後で駅に一旦よってロッカーに荷物を預けておいた。今は廃工場にまたいる。

「それにしても・・・ジェノサイドか。殺戮者の記憶・・・か・・・」

殺戮とは・・・意味はよく分かんが複数の人間を一方的に殺すことらしい。一人が複数の人間を殺す・・・この力とデバイスさえあれば・・・スベテコロセルジャナイカ

「ハハハハッ！！！！ハハハハハッ！！！！アッハッハ！！！！殺してやるよ、スベテ、スベテナアアアアア！！！！！！！！」

手始めにあいつらだ・・・俺が苦勞をすることになったあいつらを殺してやる・・・ああユカイダナアア！！！！！！

（炎忌宅）

俺は自分のデバイス『テンペスタ』を展開している。そして家のドアを合鍵であけ、静かに中へ入る。そしてリビングへ行くと、酒を飲んでる親を見つけた。親は俺を見つけると

「おい！！金出せ！！！！」

「出しなさいよ！！！！」

もう麻薬とか覚せい剤やってんじゃないのかっていうくらい金に執着していた。救いようがねえ。殺してやるのが幸せみたいなものだ。

俺はデバイスの手甲をナイフにすると、父親のほうに一瞬で近づいて心臓を串刺しにする。

「がふぁ」

そう言う口から血を吐いた。ナイフをさしたところからも血が流れ出した。さらにナイフを炎が伝わせ、血を床に垂らす前に血すら燃やしつくす。あとは灰だけが残った。

「次はお前だ」

そして言葉を言う前に母親の口の中にナイフを突き刺す。さらに炎を体内に流し込み燃やしつくす。汚物の処理はこれで完了だ。あとは灰をどうするかだが・・・

「埋めておこつ」

俺は庭に灰を埋めておいた。人体を燃やせば灰になるほか骨が残るはずだが、その骨をたたき尽くせば灰になる。これが仕掛けと言うわけだ。そしてすべて灰にして埋め終わると、俺は部屋の掃除を始めた

（少年掃除中）

「終わった。これで家に住める」

俺は家に住むためだけに親を殺したのかもしれない。だけど、後悔はしていない。自堕落な親だから死んでもかまわないはず。ヒーローだあ？道徳だ？んなもんいらねえんだよ！！！！

「荷物取りに行くか」

その前にデバイスを待機状態にしよう。

少年移動中

俺は荷物を取るとすぐさま家に帰り、再び自分の部屋に荷物を置いた。何ヶ月振りだろうか分からなくなるが、自分の部屋はいい。次に冷蔵庫の確認だが驚くほどに酒しかない。酒のほうは神山家にお中元みたいにあげるとして、食材とかをどうするかだな・・・明日買えばいいか。高校ないし。俺はこれからの日々に期待をさせながら眠りについた

side out

side 聖夜

「なーなー蛇川。おもしろいぜこいつ」

「なんだよ」

俺は蛇川にそう声をかけると、慈円炎忌が親を殺しているところを見せた。案の定蛇川はばつの悪そうな顔をした

「まさかとは思うが・・・」

「ああ・・・ジェノサイドの使い手に恥じない奴だぜ」

こいつをしばらく観察しているか

side out

side 第三者

「ふあゝあ、もう9時か」

ちょうど炎忌は朝、気持ちのいい目覚めをすると服を着替えて歯を磨き、食材を買いに行った
くスーパーマーケットく

「特売やすいな」

炎忌は特売で食材を大量に買い込むと、幸せな顔で帰路についていた。誰から見ても幸せな顔である。そうして炎忌は家に着くと食材を冷蔵庫にしまってから外へ出た。鍵はきちんと閉めたらしい。そしてどこからか悲鳴が聞こえる

「キヤアアアア!!!!!!」

「何なんだ!?!」

炎忌がそこへ急ぐと、マスカレイド集団（仮）と中心に変な怪物がいた

「へえ・・・厄介事に巻き込まれるもんだねえ。厄介な人間を消した後は!?!」

『GENOCIDE!!』

「変身!?!」

『GENOCIDE!!』

炎忌は仮面ライダージェノサイドに変身していきなりベルトの左側を押した

『GENOCIDEMAGNUM』

「まったくもう・・・敵が多いと集中できない」

炎忌がマスカレイド集団（仮）＋怪人に銃撃を浴びせかける。マスカレイドのほうは全員やられるが、怪人のほうはタフで倒れない。

「なら真正面からだぜ」

『GENOCIDESHAFT』

炎忌がジェノサイドシャフトで怪人のほうに打撃を加えるが、それを怪人のほうは腕でガードして炎忌にパンチとキックの連打を浴びせかける

「がはあ！」

負けじと炎忌もシャフトで打撃を加えるが、怪人のほうはき攻撃が効いていないようで、ものともせず炎忌に打撃を連続で決める

「つち！！！！一点突破するしかないようだな」

炎忌はベルトのマキシマムスロットにロストドライバーから引き抜いたジェノサイドのメモリを入れ、軽くたたく

『GENOCIDE！！MAXIMUMDRIVE！！』

「ライダアアパアアンチイ！！！！」

炎忌は怪人の腹にマキシマムドライブを叩き込んだ。そして、

「グギアアア！！！！」

多分だが人間には発音できない言葉を発して消滅した。そして炎忌は変身を解く。

「なんなんだよ・・・ん？」

炎忌が地面からUSBメモリのようなものを拾った。どうやらVと書かれているようだが、炎忌が触ったとたんに砕け散った

「なんなんだよ」

side out

データ2 殺・戮・青・年（後書き）

デバイス名：テンペスタ

バリアジャケット：赤色の短パンに赤色のノースリーブ、その上に
WのNEVERのジャケットをはおっている。

炎忌の魔力光：赤色

出たドーパント：バイレオンスドーパント

「と、まあこれくらいにして……管理局の動向は？」

「お、機動六課のメンバーが分かったぜ。総部隊長に八神はやて、スターズ分隊とやらの隊長に高町な

のは、ライトニング分隊にフェイト・Ｔ・ハラオウン、スターズにスバル・ナカジマ、ティアナ・ランスター、ライトニング分隊にエリオ・モンディアル、キャロル・ルシエ、さらにシグナム、シャマル、ヴィータ、ザフィーラなる奴らもいるらしい」

「おお……こりやすごいお人たちで」

まったく……動きにくくなるなあ。おもに仮面ライダーとして。協力者になるほかないじゃん。捕まったら、の話だけどな

「んでさ、バイク頼むわ」

「バイク？ああ、免許取ったんだっけ。非公式で」

俺の免許証にはミッド語で特別認定と書かれている。これを見せればほとんどお、こと。これも玲人だけだね。持つ者はいい友達だね

「分かった。んで管理局対策は？」

「ステルス」

「やっぱりか」

俺は玲人にそう言うと、屋上の階段から下に降りて、学校の裏口から逃げる。そして自分の家に帰り、ロストドライバーを調べ始めた

「なんだろうな・・・電池っぽいものもないし・・・未知のエネルギー源でも使ってるのか？」

俺はそう思いながらロストドライバーを腰につけ、メモリを入れな
いまま傾けてみるが、何も起こらない。そりゃそうでしょうね

♪

「もしもし」

『おい、お前の言う怪人のような反応があったぞ。あとバイクが
完成したから』

「速いな」

『質量高速構築装置。データをこれに入れば3秒で出来る。お前
のうちの前に自動走行させておくか
ら』

そう言って電話を切りやがった。俺は自分の家の玄関につくと、そ
こには赤く塗られたバイクがあった。俺はそれにまたがると、目的
の場所まで急ぐ。それにしても早いな。俺は顔が知られるとやばい
ので走りながら変身することにした

『GENOCIDE!!』

「変身」

『GENOCIDE!!』

俺は仮面ライダージェノサイドに変身し、目的地に着き、ドーパン

トにバイクアタックをかます

「あっちゃんぶりけ！！！」

え！？

「ああもうつるさいうるさい！！！！！」

俺はバイクを止めてドーパントに蹴りを入れ、パンチをくらわせる。
バイクアタックのダメージが残っているらしく、反撃をしてこない。

「さっさと決めるぜ」

『GENOCIDE！！MAXIMUMDRIVE！！』

「ライダーパンチ」

俺はマキシマムをさっさと決めると、変身を解いてバイクに乗り、
帰宅した

side out

データ 4 欲・望・降・臨（前書き）

タイトルの通り

データ4 欲・望・降・臨

side 炎忌

「クソッ！！数が多すぎるぜ」

俺はただいま絶賛戦闘中だ。マスカレイド軍団が多すぎるんだぜ！
！それにしても玲人はまだかよ！！あいつが欲望王の鎧を見つけた
とかで玲人の援軍を待っているのだが。まったくもって玲人は肝心
な時だけ遅い。

「まったくもう！！」

それにしても玲人は・・・ん？なんだ、このバイクの音？

「やつほおおおお！！！！欲望王の降臨だぜええ！！」

玲人きやがった！！！！おいしいところだけを持っていく奴だからな。
腰に巻かれているのは変なベルトにその中に赤、黄色、緑のメダル
が入っていて、それをスキヤナーで読みこんだ。え、あの語句叫ん
じゃうのおおお！！！！！！

「変身！！」

『タカ！！トラ！！バツタ！！、タ・ト・バ！！タトバ、タ・ト・
バ！！』

玲人はそう言つてスキヤナーでメダルを読み込む。そして玲人の体
を何かが包み込み、頭はタカのような頭、胴はトラのように腕に爪

がついている。そして足にはバツタのようなレッグに なっている。
そして体の中心には上がタカ、中心がトラ、下がバツタの戦士

「仮面ライダーオーズ。よろしく」

「五月蠅いぞ、さつさとやれ」

そして俺と玲人は駆け出す

side out

sideレレレの玲人

作者殺すぞ

side 玲人

これでよろしい。俺と炎忌はマスカレイド軍団に走り、トラクローを展開する。そしてそのうち一体を切り裂き、タカのメダルを引き抜き、タカのメダルを青色の、シャチメダルに変える。さらにトラのメダルもゴリラのメダルに変える。これは頭部系コアメダルをタカに集約してみた。胴系コアメダルもトラに、レッグ系はバツタに集約した。やろうとしたら出来た

『シャチ！！ゴリラ！！バツタ！！』

これは仮面ライダーオーズ、亜種のシャゴリバだ。俺はシャチの頭から水流を放ち、マスカレイド軍団を後退させ、さらにゴリバゴーンを構える

「ロケットパンチ」

「おいおいおいおいおいおいおいおい！！！！マジ○○○
○のパクリじゃねえかよ！！」

炎忌が突っ込んだ。飛んだゴリバゴーンはマスカレイドに当たり、通産10体くらいだ。さらに俺は頭と胸のメダルを緑色に変える。これはコンボというらしい

『クワガタ!!カマキリ!!バッタ!!ガタガタガタキリバ!!ガタキリバ!!』

「何だよその歌」

「歌は気にしないでくれ」

俺はそういつとガタキリバの特殊能力、分身をし50体が増えた。そしてそのままもう一回メダルを読み込む。

『スキヤニングチャージ!!』

そしてマスカレイド軍団を眼前に50人のガタキリバが一斉にジャンプした

『GENOCIDE!!MAXIMUMDRIVE!!』

「ライダージャンプ!!」

炎忌もガタキリバ軍団の中に混じった。そして、全員がマスカレイド軍団に向かいキックしながら急降下した

ガタキリバ軍団+炎忌「セイヤアアアアアアア!!!!」

そして全員一斉にマスカレイドにキックを放つと、マスカレイド軍

データ5 微・弱・電・波（前書き）

サブタイの意味はあまりなし

ちなみにOPは「裏切りの夕焼け」

EDは狂愛 kyoai

データ5 微・弱・電・波

side 炎忌

「変な電波あ？あんだよそれ」

「まあ、落ち着けてさ。飯は逃げないし」

俺は飯をかつこみながら玲人の話を聞いている。なんでも愛用のパソコン、ウルスピで電波検索をしていたところで見つかったらしい。しかもそこは有名な幽霊スポット、これは変だということで調べに行くことになった。零時も行くなりしい。

「お前そういえば・・・」

「零時にライダーシステム作った」

「・・・何でもありだな」

俺はすごいあきれた。こんな奴らが友達の俺って一体なんなんだろうな。玲人はパソコンでまた何か作業していると、

「株価下がらせまくった」

「なにやっとううう！！！！」

こいつ・・・アホを超えている。
「つーわけで調査日だ」

「僕が神山零時です!!」

「我が弟よ何を言っている」

「何言ってるんだよ零時」

いきなり自己紹介を始めた零時に流石に突っ込みをする玲人。こいつら、駄目だな

「いや、何となくやらなきゃいけないような気がして。んで、兄さんに炎忌さん。こんなところに電波の発信源があるんですか？」

零時が玲人に聞くと、玲人はパソコンを取り出す

「ここに発生源だ。管理局かもしれないから気をつけろよ零時。俺たちは・・・このバカどもを一人残らずバラす」

俺たちの目の前にはいつのまにか管理局員達がいた。うん、イライラするんだよねこっぴうのさ

「さてと・・・零時だけさきにいつてろ」

「分かりました!お気をつけて」

零時はそっぴうと走り出した。さて俺たちも・・・

「やりますか」

「ああ」

side out

side 零時

「たくもっ・・・兄さんたちがやっている間に僕も見つけ・・・あつた」

あつけなく見つかったなと思いながら、その発生源まで近づくとそこには

「ロストロギアか。でも・・・なんか怨念っぽいのにじみ出て・・・」

あ、すごい、骸骨集団と鳥っぽい怪物がいる。だけどそれを回収しないとね。僕はカードデッキを目の前に突き出す。そうすると腰にベルト、「Vバックル」が装着される。

「変身」

僕はそこにカードデッキを入れ、仮面ライダーリュウガに変身する。そしてカードデッキから一枚のカードを引き抜き、それを左腕に装着されている、ブラックドラグバイザーにカードを装填する

『ADVENT』

そしてドラグブロッカーを呼び出して骸骨集団を一気になぎ倒す

「次はこれですよ」

『STRIKEVENT』

『STRANGEVENT』

さらにストライクベントとストレンジベントを同時に発動し、右手にドラグクローを装備する。さらにストレンジベントで発動したカードを装填する

『TRICKVENT』

ストレンジベントで現れたトリックベントを使用し、分身をする。そしてドラグクローでそのうち1体を殴り、さらによってきた複数の骸骨も足で蹴り倒し、圧倒している。

「そろそろおしまいだね」

そして僕はカードを装填する

『FINALVENT』

そしてドラグブラッカーが僕の周りを螺旋状に囲み、宙に浮く。そしてドラグブラッカーが吐く炎により硬化した骸骨集団めがけ、

「はああああ！！！！」

ドラゴンライダーキックを浴びせかけた。

「終わった終わった」

そしてロストロギアを手に取ると、そこには

「????カードデッキ?ブランクだしな・・・」

僕が持つリュウガのカードデッキに似ているが、龍の意匠がなく、ただの黒い箱だった

「とりあえず兄さんに持っていくか」

side out

side 炎忌

『スキヤニングチャージ!!』

『GENOCIDE!! MAXIMUM DRIVE!!』

「オクトパニッシュ!!」

「ライダーキック」

俺たちは管理局員に対して、玲人はシャウタコンボで、俺はジェノサイドマグナムでそれぞれ攻撃し、最後にまとめて必殺技でぶち殺したというわけ

「あ、終わったか」

「速かったな零時。もう終わったけど」

「我が弟よ、これが兄と炎忌の実力だ」

零時はVバックルからカードを引き抜き変身を解く、玲人もオーズ

ドライバーを元に戻して変身を解き、俺もロストドライバーのメモリスロットを縦に戻し変身を解く。そして零時が取り出したのは、

「お前の持っているカードデッキに似ているな・・・後で調べよう」

「兄さん・・・笑いが怖いです」

うん、それよくわかる

side out

データ5 微・弱・電・波（後書き）

玲人&零時の紹介は次回載せるつもりです

データ6 神山玲人&神山零時のデータ

名前：神山玲人

性別：男

年齢：16歳

魔力：無

デバイス：無

特殊所持物：コアメダル、オーズドライバー

説明：慈円炎忌の少ない友人でもあり、ジェノサイダーを作った。
全次元世界の5人の一人に入るほどのハッキング力を持っている。
さらにジェイル・スカエリッティをしのぐほどの科学力を個人で持っているため管理局から狙われている。魔力は無であり、リンカー
コアも存在しない。彼単独でアルハザード、あるいは神の領域にも
行けるといわれている。とある経緯で手に入れたコアメダルを3つ
のメダルにまとめるといいう荒業を見せる。

容姿：鏡音レンを白髪にして瞳の色を白色にしたらこうなる

所持メダル

タカ 1

クジャク 1

コンドル 1

ライオン 1

トラ 1

チーター 1

クワガタ 1

カマキリ 1

バッタ 1

サイ 1

ゴリラ 1

ゾウ 1

シャチ 1
ウナギ 1
タコ 1
コブラ 1
カメ 1
ワニ 1
プテラ 1
トリケラ 1
ティラノ 1

頭計コアはすべてタカに、胴系コアはトラ、脚系コアはバッタにまとめられている

名前：神山零時

性別：男

年齢：15

魔力：無

デバイス：無

特殊所持物：リュウガのカードデッキ

説明：神山玲人の弟で、普通の中3。頭は兄並みに良く、顔がいため女子からの人気がある。常に敬語っぽい口調で話すのは本人いわく「格好よさそうだから」らしい。レディファーストの精神で行動しているために、女子が困ればすぐ助ける。女子を泣かせた奴はフルボッコする。というめちゃくちゃである。しかし、女子でも人を泣かせれば許さない。筋は一応通すらしい。リュウガのカードデッキは玲人作製であり、ドラグブラッカーも疑似生命体である。ちなみにカードデッキの強度はオースプトティラコンボのグラント・オブ・レイジを受けても逆に跳ね返すほど硬い。攻撃の特性も無効化できる。Vバックルはカードデッキを前に突き出すだけで現れる。さらにどこからでもミラーワールドへ入れる。トンデモと言っている。ドラグブラッカーは普通に食事と水があれば生きていける。所持カード

A D V E N T

原作通りドラグブロッカーを呼び出す。 7000APと原作より割増

S W O R D V E N T

ドラグセイバーを呼び出す。 3000AP

G U A R D V E N T

ドラグシールドを呼び出す。 3000GP

S T R I K E V E N T

ドラグクロールを呼び出す。 3000AP

A C C E L E R A T O R V E N T

加速する。原作にはないカード。

S T R A N G E V E N T

その場の状況に応じたカードになる

F R I E Z E V E N T

相手を凍りつかせる。

F I N A L V E N T

ドラグブロッカーが硬質化させる炎を相手に吐き、その相手にドラ

ゴンライダーキックをする。 8000AP

サバイブのカードを一応あるらしい。

容姿：鏡音レンの髪を黒くし、瞳を青色にした感じ。 男版BRS？

データ7 ホテル・アグスタ（前書き）

あの事件とからみますが、機動六課はあまりとつか出ません。そういう小説ですから

データ7 ホテル・アゲスタ

side 炎忌

「レリック取引？」

「その裏にさ……セルメダル1000枚の取引があるんだ。セルメダルつつうのはコアメダルの劣化版みたいなもんさ」

しかし馬鹿に出来ないらしい。6枚くらいでSSSオーバー行くらしいからな。塵の意地？まあいいや。それにしても……

「何故奪い取る？」

「兄さんの研究対象としてふさわしいからだそう……です」

零時……お前、本当に苦労しているな。まあいいや、でもさ……チケットどうするのかな？やっぱり違法ルートだね。俺らの場合

「そう思い違法に入手しました。タキシードもあるよ」

話が早すぎる！！もうちょい個人の人権無いの！？

「兄さん僕ら「美人いるかもしれないぞ？」行きます！！！！ぜひ行かせてください！！！！」

こいつもこいつで、乗せるの簡単すぎだろ……仕方ないし、それにうまい飯ありそうだし

く当りく

「玲人も以外と似あうんだな、タキシード」

「俺たちほど似合う高校生はいないぜ！！！」

「兄さん叫ばないでください。周りの、特に女性に迷惑です」

そして零時がキュピーン！！となる

「どうして「あんな・・・美人な女性がこの世に居るのか・・・」
やば」

「口説こう」

「やめろ」

零時には拳骨で許してやりホテル内へ行く。それにしても・・・

（兄さん、あの人たちの落第点は）

（高町なのはつつう奴の魔法は砲撃魔法主体だからこんなところでは使用できない。あのフェイトとかいう女の魔法もあり、それに隊長自ら行かないのもいただけないぜ）

（そうですか・・・一人の女の人としてみればとても美しいのです
が）

（二人ともうるさいぞ、取引の時間までにはれたら元も子もないかな）

俺はそういつと眼を凝らす。零時はまた女を口説きに行っている。
ああ、またやぶれたな。こりないねえ。ま、玲人が肩を叩いてきた
な・・・

（炎忌、ガジェットがきているらしい。どうする？）

（作戦に支障がでる。機動六課の方がやってくれるだろうから、
ほっておけ）

（ああ・・・あともう一つ追加だ）

取引の品の追加？何故だ

（ファイズギア、カイザギア、デルタギアが追加された。デルタギ
アとファイズギアを奪ってデルタギアを壊すぞ）

（なんでそのデルタギアだけ壊すんだ？）

（あれは危険物だ。ファイズギアのほうは然るべき人物に渡す）

（おK）

とりあえず俺たちは一旦別れることにした
side out

データ8 ホテル・アグスタ2（前書き）

続きだぜ・・・

データ8 ホテル・アゲスタ2

side 炎忌

「あと何分？」

「あと10分だ。零時、行くぞ」

「分かりましたよ・・・イエス・レディース・ノータッチの精神に従い・・・」

れいしゝはさとりをひらいたようだゝどうする？

眼を覚まさせる そのままにしておく ネオアーム（ry
きゅう

「そのままにしておけ」

「ああ・・・」

「何ですか？」

「「至って正常だなおい！？」」

そして俺たちは取引場所へと向かった。

side out

side 第三者

「取引場所」

「おい！！！！ガジェットが攻めてくるらしいぞ！！！」

「速く取引を終わらせてトンスラするぞ！！！」

「こんなのはオサラバだ！！！」

そして、2回目に言葉を発した男の首がはねる。そこには

「遅すぎますよ？」

リュウガに変身していた零時がドラグセイバーを握りながら言っていた。そして残りの2人の後ろに炎忌がいつの間にかファイズ、カイザ、デルタの3つのドライバーに加え、帝王のベルトを奪い取り、1人の男は玲人に首の骨を折られ、最後の一人は心臓を炎忌に正拳突きで突かれて絶命した

「これがファイズギア」

「カイザギア・・・か」

「デルタギアですか」

俺たちはどうやらやることが決まったようだ。俺はキーで5・5・5とうち、折りたたむ。零時は「変身」と言い、玲人も何かの数字を撃ち込んだようだ

『standby』

「「「変身!!」」」

『『『complete』』』

そして俺、玲人、零時をそれぞれ、赤、黄色、蒼の光が包み込み、そこに立っていたのは

side out

side 第三者視点

炎忌が変身した仮面ライダーファイズ、玲人が変身した仮面ライダーカイザ、零時が変身した仮面ライダーデルタがたっていた。このツールはオルフェノクでなくても変身できるようだ

「さて・・・突破するぞ」

「ええ、長居は無用です」

「吹っ飛ばす!!」

そして玲人、炎忌はそれぞれのツールに106と入れ、零時はfireと音声入力する

『『『burst mode』』』

そしてそれぞれの連射された光弾でほとんどのものが吹っ飛び、そこから、ファイズ、カイザ、デルタの3人が抜けていき、変身を解く

「しつくりきませんね」

そう言つて玲人に投げ返し、カードデッキを前に突き出す零時。零時の腰にはVバックルが装着され、そこにカードデッキを差し込み、リユウガへと変身する

「俺もパス」

炎忌もファイズギアを投げ返し、ロストドライバーとジェノサイドのメモリを取り出す

『GENOCIDE!!』

「変身」

『GENOCIDE!!』

そして仮面ライダージェノサイドに変身する。

「やはり適合はするものの・・・体に合わないか・・・まあいい、エネルギーを取り出すだけ取り出して捨てるか」

そしてオーズドライバー&コアメダルを玲人は取り出し

『タカ！トラ！バッタ！！タ・ト・バ！！タトバタ・ト・バ！！』

玲人はオーズ・タトバコンボに変身するそして3人は走ってその場を離脱した

side out

データ9 転・生・兄・弟（前書き）

はい、すぐやられますけどね。 転生者

データ9 転・生・兄・弟

side 炎忌

「……………なんか変な気配が朝からする。まるでつけられているような……視線を感じるような……俺はデバイスを起動させるタイミングを考えながら人気のない場所へ誘導してみる。案の定まだつけてきて、立ち止まってみた

「……………おい、出てこい」

「兄ちゃん、あいつ転生者かな？」

「当たり前だ「俺はあいにく前世の記憶なんかなくてね」っち、始末するぞ」

へえ……………なら俺も

「殺らせてもらおうかね。セットアップ」

俺はテンペスタを起動させてバリアジャケットを纏う。

「えんけん
焰剣」

焰で刀身が出来ている刀、焰剣を振り回し、相手に斬りかかる

「甘いね、時を操る程度の能力」

そして、次の瞬間には後に回られてたたき落とされた

「死なない程度の能力だね、兄ちゃん」

「ああ・・・死なないのさ俺たちは。だから・・・死ね」

「矛盾している・・・」「炎忌を殺させるわけにはいかない」玲人
「!!」

流石だねえ・・・俺の友達は

side out

side 玲人

「へえ・・・かわいがってくれたじゃない」

俺はオーズドライバーに紫のコアメダルを入れ、オースキャナーで
スキャンする

『プテラ!!トリケラ!!ティラノ!!プトティラのザウルス』

そして一人に近づいて一気に切り裂く

「こんなのすぐ再生・・・しない!!?!?」

「兄ちゃん?!?!?」

「再生するのなら・・・無に帰せばいい」

俺は静かにそう言うと、メダガブリューに入れ、ティラノの頭部を
模した物でセルメダルを噛み砕くようにする

データ10 全・力・全・開（前書き）

機動六課は出ないよ！！そういう小説だし。出るかも・・・？

データ10 全・力・全・開

side 炎忌

「ひどい目にあった」

「災難ですね、炎忌さんも……僕が殺りたかった」

「物騒な事言うな……六課の盗聴しているんだから……」

何気に一番物騒な事を言う玲人、何故盗聴する……orz

『ねえ……私の教導、そんなに間違ってる?』

そこには高町なのはらしき人物がオレンジ髪の子に対して一方的な喧嘩をしているところだった

「おお……繋がったで」

「静かにしろ炎忌」

「ハイ」

ん? 零時がブルブル震えているが……まさか!?!?!?! あいつあの場に乱入してあーだこーだする気だぞ!

「兄さん、ミラーワールド有効活用します」

「OK」

「許可出すなあああ!!!!」

side out

side 零時

高町なのはに介入する……次いでに管理局にでも釘を刺しておきますか。ライドシューターでミラーワールドを突っ走っておりますが……あ、もうついた。僕はミラーワールドでの現場に行くと、そこから現実世界へと戻ります

「ついたついた……貴女達の会話、さっき聞いてたんですよ」

「そう……あなたから頭、冷やそっか」

「女性には手を上げたくありませんが……仕方ないですね」

『ADVENT』

……

そしてドラグブロッカーを呼び出すと、その上に乗り飛翔する、そしてあのカードを取り出すと、腰についたブラックドラグライザーツバイの口に装填する

『SURVIVE』

そして、僕の体に後付けされたような漆黒の装甲がつき、ドラグブロッカーもブラックドラグランザーへと進化した

「さてと……本気を出すか」

口調が変わったのは、俺の本気を出すときにしかでない素の面だ。いつもは敬語っぽいものを使ってごまかしているが本来はこちらのほうなのだ

「手前、さっきのボコリが教導だと言ってたよな・・・」

「私の教導に他人の貴方が難癖つけるのかな・・・？」

気迫がすごいねえ・・・でもさあ

「あんな一方的なのが教導と言えるならさ・・・お前をここで葬る」

そしてブラックドラグライザーツバイの後頭部にあるハンマーを引き、そこにカードを装填する

『SHOOTVENT』

そして一気に近づきロックオンをする。そしてもう一度離れる

「そんな攻撃じゃ・・・意味ないよ、アクセルシューター」

そしてこちらへ魔力弾を一気に撃ち込むが・・・動きがすこし荒いような気がします。

「ブラックカー、やってやれ」

構わずシュートベントのもう一撃、ブラックドラグランザーの火球を撃ち込む。しかしすぐに避けられ

る、がロックオンしているので追尾してくるが、

「デイベインバスターー!!」

バカでかい砲撃でかき消された。非殺傷設定じゃ威力が足りない!!

「っち、接近戦に持ち込むしかねえか」

『SWORDVENT』

ブラックドラグライザーツバイの本体から、短剣が展開される。そしてブラックドラグランザーで接近し斬りかかる。しかしそこはサイズの差というものが出てくる。相手は小回りが聞くが、こちらはでかすぎて効かない。ま、これを使えばいいか

『WINGVENT』

そして背中にはブースターのようなものが付き、飛行可能になる。非殺傷設定にしてあるが。本気で行くぜ

「なっ……」

「甘い甘いんだよおっお!!!!!!」

そして五連続で切り裂き、蹴り倒す。そしてブラッカーの火球をぶつける。名前が長いからサバイブ使用前のブラッカーという名前で呼んでいる。もろに食らったし……そろそろ決める……

「スターライト……」

「仕方ない!!」

「ブレイカー!!!!!!」

『GUARDVENT』

そして黒い炎の壁で防ぐが、耐えきれないらしく、すぐに砕け散る。何とか回避をするが、少しダメージを受けてしまった。

「仕方ない……使いたくなかったが、お前がそこまでやるのだから」

『FINALVENT』

「はあああああ!!!!!!」

ブラッカーの上に乗し、バイクモードに変形させて、空中に黒い道を展開してそこを走り黒火球をどんどん撃ち込む。そして煙を上げ、そのすきに高町に硬質化させる炎を当てた

「オラアア!!!!!!」

車体を高町に当てると、そのままサバイブ体を解いて地面に着地し、ブラッカーを普通の状態に戻し、さらに

『STRANGEVENT』

『BINDVENT』

拘束する。さらに管理局に

「管理局さん……？これが僕たちの戦力です。今日は非殺傷設定で戦いましたが戦場では、本気で殺しに行きますのでご注意ください。それがいやならば僕たち、神山玲人の所在を探してはダメです……。命が惜しくないのならどうぞ、探すなりなんなりしてください。生きて帰れる保証はありませんけどね」

そしてミラーワールドから自分の家へと戻る

く玲人宅く

「終わった」

「玲人あんな宣戦布告並みの事して大丈夫なのかよ？零時は素が出てたし」

「大丈夫だよ……」

そつ、あんな腐っている組織に負けるはず、ないじゃないですか？
side out

データ10 全・力・全・開（後書き）

文才がなくて本当にすみません、原作知らなくて本当にすみません

データ11 青・空・既・死（前書き）

久々で済みません。ブレイドのオリジナル変身の仕方が思い付いて
1、ラウズアブソーバーのQのカードを入れる場所にスペードのA
チェンジビートルを井入れて変身する。このときの音声は『c h
a n g e u p』

2、キングフォーム・ジャックフォームの強化は同じ。

3、ブレイラウザーはカード収納機構がオミットされている。

4、必殺技はブレイラウザーにキングのカードをラウズすることに
より、キングブレイク。Jのカードをラウズすると、ジャックキッ
クを発動できる。なぜAPチャージの技が発動しないのかというと・

・APという概念がないので。玲人作のラウズアブソーバーは・

・（汗）

5キングフォームの2と10のカードはブレイラウザー・オミット
の中に収納されている。

・・・・・無理やりじゃねえか！！修正したのに

データ11 青・空・既・死

S i d d e
零時

ひさびさに殺る気を出してしまいましたね・・・気をつけなくてはあんな女性を殺してしまつたら男として顔が死にます！！まあそれはいいとして・・・さつきからつけられていますね。裏路地に誘ひ込みますか。そして裏路地まで行くと、案の定ついてきた。立ち止まつても動いてきて、不意に背中誰かがぶつかった

「……さっきからつけていましたね。ストーカーですか？」

そう言つて振り向くと・・・オンドウルラギツタンディスカ
ー！！！！？！？！？！？！？！？！？！？！？！？！？！？！
？！？！？！？！？！？！？！？！？！？！？！？！？！

「ふええ！？」

「いやいやいや！急に声をかけて済みませんでした」

平常心平常心平常心。それにしてもこんな美人につけられ……。まさか

「もしかして……管理局に命令されましたか？」

「!？」

図星でしたか……。やはり糞ですね。あの管理局は！！こんな美しい女性を實力もなさそうなのに危険な任務に！！最低最悪の組織ですね

「動機とかは言わなくてもいいですけど．．．管理局に弱みとか握られていそうですね」

「はい．．．実は．．．」

ふむふむ．．．読者の皆様には教えられませんね。プライバシーですから

「なるほど、復讐したくありませんか？自分をこき使う管理局に」

「．．．．．」

「選ぶのはあなたの自由です。しかし、護身用にこれを渡しておきます」

僕はそう言ってアブソーバー．．．仮面ライダーブレイドに変身できる装置を渡す。本来はブレイバックスが必要なのですが、これはその必要をなくしたものです。

「決心がついたなら、ここに来てください」

僕が提示したのは．．．管理局支部がある世界の一つ。ここは近々つぶそうと思ったんですけどね．．．
まあいいですか。おっと、忘れていました

「貴女の名前は？」

「私の名前は．．．．．結城奏です」

「結城さんですか．．．いい名前ですね。では、決心がついたら後

日

そう言つて僕はその場から離れました。できれば味方になつてほしいですね。でもアブソーバーを持たせておけばある程度護身はできるはずです。あ、ちなみに使用の仕方の解説の紙も同封しましたよ。だつて女性が困つてしまつては元も子もありませんから!!

side out

データ12 剣・王・降・臨

side 零時

「で、渡しちゃったのかよ!？」

「美人なのでつい」

「管理局にばれなきゃいいが・・・いざとなれば俺が処分するからいい。んで」

兄さんが一枚のカードを取り出す・・・それはタロットカードで、英語で運命と書かれていた。どういう意味でしょうか？兄さんはこういうのを出すのは珍しいですね

「俺らはジェイル・スカエリッティに協力する。あとスカエリッティ宅にはすごいかわいい女の子が11人くらいいるとかいないとか」

「どうぞお願いします!!」

ナンデスト!!!オンドウルララ・・・またオンドウルってしまった。猛省しなければ・・・

「では、明日は少し遠出をしますので」

「分かった」

そう言って僕は自分の部屋へと戻り、寝た

「次の日」

「やはり・・・管理局に弱みを握られていたら駄目ですか・・・」

僕はそう思い、一人で決行しようと思いましたが。不意に足音がし、身構えるとそこには結城奏さんがいました。やはり来ましたか・・・

「す・・・すみません。許可が下りるのに手間取ったもので・・・」

「いいですよ？これからやるんですから」

そして結城さんのほうを向くと・・・ずいぶんと変わった眼しやがつてるな・・・まさかとは思うが

「結城さん。まさか？」

「はい・・・脅していた管理局員20名を少々、殺しました」

やっぱりか・・・恐ろしい。でもかわいい！！！！ヤンデレ最高・・・読者の皆様すいませんでしたああああ！！！！性癖もろだししてえええ！！！！！！

「零時さん？なんか後悔してますね。顔が」

「すみません・・・さて、つぶしてお茶とでもしやれこみましようか」

そして僕はカードデッキ、結城さんはラウズアブソーバーのインサートリーダーにAのカードをいれる

「変身」

『changeup』

そして僕は仮面ライダーリウウガ、結城さんのほうは仮面ライダーブレイドに変身し、ブレイラウザーを構える。

『SWORDVENT』

「さて・・・行きましようか。血塗れの剣、ブライド」

「へ？ブレイドでしたよね・・・このライダーの名前」

「ブラッディとブレイドをかけたんです」

そして先に突入し、カードを読み込む

『ADVENT』

そしてドラグブラッカーを呼び出し、現れた局員を尾につきさし殺す。さらにその死体を他の局員になげ

つけて、結城さんのブレイラウザーが貫く。それにしてもたじろいだり、気持ち悪くなったりしませんね・・・壊れてしまったのでしょうか？心が

「はあ！！」

結城さんはすごく強いです。戦闘訓練を積んでいない人とは思えませんね。まあ、結城さんに任せておけば大丈夫でしょう。

「結城さん、僕は左から行きますので、右をお願いします!!」
side out

side 結城

「結城さん、僕は左から行きますので、右をお願いします!!」

そう言うと零時さんは突如左側の道へと行ってしまった。ここをまかせてくれるのかな?でも、これから楽しい楽しい殺戮タイムだしね?邪魔されたくないよ。ボクはね

「It's a show time」

そしてボクは一人を貫いてから頭まで袈裟に切り裂き、脳髓を露出させる。それをもう一人に投げつけ、脳髓もろとももう一人に貫く。魔力弾が当たるがまったくもってダメージがこないの、気にせずラウズアブソーバーのスラッシュリーダーにキングのカードをラウズする

「Evolution king」

そして13枚のアンデットと融合し・・・ブレイド・キングフォームへと進化したボクの姿を哀れ、管理局員はおびえている。

「情けないなあ・・・楽しみはこれからだよ?」

そつ・・・・・・これからだよ?

データ13 殺・戮・少・女

side 零時

「結城さんに任せただけど・・・大丈夫ですかね」

僕は左の道へと向かったが、誰も居なかった。いや、いましたけど叫ぶ前に全員殺しておきました。たとえば女性でも・・・俺の邪魔をするなら消す

「結城さんは・・・うう・・・」

口の奥から何かがこみ上げるのを必死でこらえながら、その光景を見ていた。凄惨すぎる。誰かの脳髓が露出し、口からしんぞ（以下自主規制）

「結城・・・さん？」

「か・・・みやま・・・さん・・・？」

どうやら結城さんがこれをやったようだ。キングフォームの鎧や剣には肉片がついていて、むごさをさらに強調させていた。僕は変身を解くと結城さんのほうまで近づいた。結城さんも変身を解いた。そしてA・Q・Kのカードをラウズアプソバーにしまうと、不意によろけた

「お・・・っと、大丈夫ですか？」

「少し疲れて・・・すみません」

「いや・・・むしろ初めてでここまでやるほうが・・・はつきりいつて異常です」

僕は思ったことをそのまま口にするが、結城さんはそれほど驚いていなく、むしろ口に少し笑いを浮かべた。それにしても・・・すごい鬱憤が溜まっていたのか。異常性が高いのか。謎ですね・・・それにしても今の構図最高ですよ！！背中におぶっているんですよ！！女性を！！これが熱狂しないわけ・・・すみません

「重いんだったら・・・おりますけど」

「いえいえいえ！！大丈夫ですよ・・・」

そうして僕は玲人兄さんの部屋まで戻った
　　玲人の部屋へ

「そっちのアンタが結城奏か・・・」

「どうも・・・結城奏です」

兄さんに結城さんを紹介すると、兄さんは眼の奥のハイライトが少し変わった。あれは・・・興味を持った時

「ああ・・・お前は今日から俺の仲間であり、俺の家族だ」

「ふえ！？」

「兄さん・・・ま、家の居候としていてくれればいいよ」

「というわけで、部屋に案内しろ零時。お前の部屋と同じはなしな」
そう言つと僕は結城さんを部屋へと連れて行つた。結城さんはすごく驚いた顔をしていた。なんででしょうね？

「あの・・・えつと・・・ありがとうございます」

「いや・・・遠慮なく何か言つて下さいよ？」

「じゃあ・・・生活用品を買いに行きたいんですけど・・・明日くらい」

「いいですよ」

やほおおおおお！！！！！！明日が楽しみだぜええ！！！！！！
しかし・・・俺は知らなかった、その行為が不幸の引き金となること

side out

結城奏のデータ

結城奏：ゆづきかなで

性別：女

年齢：15

容姿：灼眼のシャナのシャナの容姿を髪を蒼みがかかった黒色で、瞳は蒼色

特殊所持物：ラウズアブソーバー、ラウズカード、スピードスート13枚

説明：管理局に弱みを握られ、強制的に神山零時の尾行をさせられていた。零時に見つかってから、ブレイドとなるが、あまりにも人を殺戮しつくすので、ブラッディブレイド・・・ブライドの名前を与えられる。本来はブレイドだが結城は今後、ブライドと名乗るらしい。実は転生者だが、1歳ごろ転生したので実質転生者ではない。性格：常におどおどしている。しかし性格が変わると人を殺すのを楽しみとしている

ラウズアブソーバーの説明：ラウズアブソーバーのインサートリーダーにスピードのAを入れることで変身する。音声は「changep」。ブレイラウザーとブレイバックルの機構はオミットされている。ブレイラウザーの場合はラウズするのにJとKのカードしか受け付けない。しかもAPという概念がないので、無限使用が出来る。体力の続く限り。ジャックのカードをラウズするとジャックキック、キングのカードをラウズするとキングブレイクが発動する。A・J・Q・K以外のスピードのカードはブライラウザー・オミットの中に収納されている。ジャックフォーム・キングフォームへの強化は普通どおり。

魔力レベル：B

デバイス：なし

以上です

結城「あの・・・ありがとうございます」

零時「かわいい！！！」

霊宮「というわけでこれからもよろしくお願いします」

データ14 機・動・六・課（前書き）

機動六課の休日とリンクしています。スバル&ティアナと出会う。
あとヴィヴィオ、ついに玲人が原作ブレイク。炎忌の胃の運命はいかに？零時不幸、奏ある意味やばい……。炎忌&奏は多分噓。
すみません

データ14 機・動・六・課

side 零時

「すごいところですね!」

「ええ、クラナガンでしたっけ」

傍から見ればカップル。うえい。まあいいけど。今日来たのは生活用品、衣料品、etc・・・という

わけである。割愛したのはすみません。ちなみに黒色のバイク・・・ブルースペイダーと言うバイクの青色の部分を黒くした、ダークスパイダーという奏さん専用バイクを運転していきました。僕のバイクですか？ライドシューターですよ。だからないんです

「まずはとりあえず・・・生活用品ですね」

「はい、迷いそうですね」

「といいながら何で僕の手を握っ・・・(うるうる)」はい、分かりました」

というわけでまずは生活用品!!

「これくらいがちょうどいいですかね?」

「そうですね・・・でもあれもいいかも」

いろいろ買い・・・(合計1万円くらい。でかい筆筒とかベッドと

かは玲人兄さんが用意)し・・・

「意外と可愛い服選ぶセンス無いような気が・・・」

「いいんですよ!!」

服がやばかった(白色Tシャツで、前の中心に『GOKUDOU』と書かれていた。女の子はそういうの選ばないと思います。ガ○ダムとかインフ○○トストラ○スとか侵○!イカ○!とか全部却下しましたが。僕も好きですよ?ガ○ダムとか侵○!イカ○!は)零時に行く先には女の子がいますよ!!」

「テロップ直せ」

「誰に行つたんですか?」

僕たちはアイス屋に来ていたが・・・ここで奏さんがふと、右を向いていた

「誰ですか?」

「機動六課の人です」

まずいですね・・・ここは適当に煙に巻いて逃げるしかないですか・・・ま、かわいいからゆー

「あ、奏ちゃんだよ!!ティア!」

前言撤回・・・逃げたいイイつい!!!!!!女性にあつて逃げたいと思ったの俺初めて!

「あ、奏じゃん。久しぶり」

「どうも・・・」

やべ・・・クリアーベント欲しい、いやむしろ使いたい

「隣の人誰？彼氏だつたりして！」

「違いますよ・・・私と零時さんはh」「いやいやいやいや！！
！違うからああ！！！！」ッ
チ・・・」

怖い、マジこの子怖い。恐ろしい。

「神山零時です。どうも」

幾分か声を変えたんですね、低めに、少しだけ。青色の髪の人
は気付いていないようですけど、オレンジ色の髪の人・・・ティア
さん？でしたっけ。この人は少し気付いているようですね

「なんか零時さんとどこかで会ったような気がするんだけど？」

「ティアさん？でしたっけ。それはないと思いますけど」

うん、あの時の子か・・・切羽詰まっっていて見ていなかったけ
れど・・・美人です！！

「私はスバル・ナカジマです。よろしくおねがいします！」

「ティアナ・ランスターよ、よろしくね」

「ええつと・・・中島スバルさんにティアナさんでしたっけ？こちらこそよろしくおねがいします」

「違います！！スバル・ナカジマです！」

ありやりや・・・間違えてしまったようですね。そして・・・携帯の着メロが流れ出した。この曲名は確か、『リリリリ バーニングナイト』という曲でしたね

「はい・・・なんだ兄さん。ええ・・・分かりました。せっかくの休日ですのに・・・分かりましたよ・・・では後で」

そして携帯の通話を切ると、よっこらせ、と椅子から立つ。

「奏さん、急用が入ったようです」

「そうですか、すみません・・・スバルさんにティアナさん」

そして荷物を持つと、席から離れる。あ、忘れてた

「アイスの代金、置いておきますね」

「あ、ありがとうございます！」

「なんかもう・・・本当にすみません」

スバルさんが目をらんらんと輝かせて言い、ティアナさんが頭を押さえながら言った。

「ではこれで」

「さようなら・・・（次に会うときは敵ですね、すみません）」

そしてダークスペイダーまで戻ると、サイドカーに荷物を積んでおき、奏さんに任せておき、頼まれたこと・・・

ジェイル・スカエリッティのアジトから脱走した聖王のクローン確保に動いた

side out

データ14 機・動・六・課（後書き）

スバルとティアナの口調分からなかった・・・二次創作で保管していたが

データ15 複・製・少・女 前篇（前書き）

今回から零時がしばらく主役！！！！リリカルなのは無印に零時介入してめちやくちやするぜえ！！！！（一話だけだけど。しかもリリカルなのはthemoviefirstだし）
を修正したぜ！！

データ15 複・製・少・女 前篇

side 零時

「え〜と、どこかな・・・聖王のクローンちゃんは」

僕が少し下水道を歩いていると、それらしき子供があるいk・・・
なんだルーテシア&アギトじゃん・・・彼女たちも探しているのか
な？それに・・・どうやらしばらく帰れそうにないみたいですね・・・

「あ・・・零時・・・あなたの兄さんのおかげで、母さん目覚めた・・・」

「お！零時じゃねえか！！！！久しぶりだな！！」

「久しぶりですね・・・ルーテシアさんにアギトさん」

家の兄さんがスカさんにO H A N A S H IとO N E G A
Iをしてルーテシアさんのお母さんのメガー又さんを目覚めさせ
たんです。まあいいとして・・・見つからない

「見つかりませんね。六課に見つかったら厄介ですし」

「うん・・・」

とりあえず行きますか

side out

side 奏

「玲人さんも・・・お楽しみタイムを邪魔するなんてひどいですね・・・いいとして、バイク運転するのって自信ないんですよ・・・」

ボクは正直いつてバイクは免許は持っているけれど運転したことはあまりない。世の中で言うペーパードライバーってやつです

「ま、いいか・・・」

ダークスペイダーにまたがると、エンジンをかけて少しすると走り出した。行つた道を戻り、今は自分の家となつた零時さんの家へと向かう。零時さんの家は日ごろから炎忌さんを泊まらせていたこともあつてか居候に寛容的だ。零時さんの両親もすごい優しいし・・・ボクの本当の家族よりも自分の家族のような気がする。

「ボクの親は・・・ひどかつたからね」

ボクの親は、常日頃からボクに虐待をしてきた。拳句の果てには殺されかけたことも数えるには両手の指では足りない。なぜか怨まれていた。何故かは知っている。ボクの家は魔導師の名家で、跡取りには男のほうが有利だったんだ。でも、男の子は生まれてすぐに死んで、代りにボクが生まれた。でもリンカーコアが僕にはなくて、役立たずや落ちこぼれなど罵倒されて成長した。成長する過程で犯罪や人殺しなんて普通にやっていた。死体から金を奪い取り、生計を立てる日々・・・それが管理局にばれてしまいこき使われていたんだ

「そう言つと、零時さんにあつたのはキセキなんだ・・・」

と、僕は思った。なら、零時さんのために何か、しようかな・・・
料理とか

side out

データ16 複・製・少・女 後編

side 零時

「おゝい」

探しているが。I N A I Z E!! ちなみに俺口リコンじゃないからね? おい今口リコンって言った作者の友達誰だ!? フレハクサマラムツコロス!! あ・・・オンドウルってしまったぜ・・・猛省せねば。そういえばナンバーズの誰かに王蛇のカードデッキ上げなきゃな・・・なにつて兄さんから決まっているジャマイカ!!

「変身しとこつ」

とりあえずリュウガに変身。そして一枚のカードを取り出し読み込む

『SWORDVENT』

武装。近距離戦闘が持ち味なので。あゝあ、美人が歩いてこな・・・

・

「あ・・・失礼しました」

「はい・・・って軽くまとめないでください!?!」

あ、美人。えゝと・・・中島スバルにティアナさん? にシヨタと口リ。そして美人!!!! なんて幸運なんだろう!!

「そのb」なにやってるの・・・?」すみませんもう調子乗らな

いからガリユーのアレ向けるのやめて
くださいマジでお願いします」

どうやら見かねてルーテシアが来たようだ。うん、サバイブですね。
サバイブのカードを取り出すと、召喚機がドラグバイザーからドラ
グバイザーツバイに変化した

『SURVIVE』

「やりあおうぜ？」

そして戦闘が開始した……
side out

side 玲人

「へえ」

俺は聖王教会にハッキングして情報を探ると、ずいぶんと面白いも
のを見た

―旧き結晶と無限の欲望交わりし時―

―死せる王の下 聖地より彼の翼は蘇る―

―死者は踊り 大地の法の塔は虚しく焼け落ち―

―それを先駆けに 幾多の海を守りし法の船は地に落ちる―

だったのだが、その予言にさらに追加されたものがある

―旧き結晶と無限の欲望交わりし時―

―死せる王の下　聖地より彼の翼は蘇る―

―死者は踊り　大地の法の塔は虚しく焼け落ちる―

―欲望の王を超える欲望が生まれし時―

―究極の闇と闇を纏いし神が復活する―

―殺戮者達と進化した人間が闇を倒す―

―しかし　世界に異形達が進軍し　世界を壊す―

―それを先駆けに　幾多の海を守りし法の船は地に落ち―

―やがて世界に　終焉の鐘が鳴るであろう―

「めちやくちゃだ．．．．欲望の王は俺、殺戮者は炎忌、達とつくのは奏に零時か」

進化した人間．．．．あいつのことか

「炎忌、俺、零時、奏、光月彰一．．．．」

そう．．．．終焉の鐘．．．．あのコアメダルを覚醒させないためにも

side out

side 零時

「回収……はいけどさあ……ルーテシア」

「……なに」

「うわあああああん!!!!!!」

「どうやって小さい子供あやせばいいんだ!？」

「……分からない」

いやマジでどうしよう……スカさんの胃もたれがまた進む……スカさん大丈夫かな？メガーヌさんも居るし

「よし、お前の母親に相談だ。マジデ」

「……うん、頭が痛くなってきた」

俺はルーテシアの転移魔法でスカさん宅まで来た。この家は主要な場所は普通の家だ。そして……

「あ、零時じゃないッスか」

「あ、ウェンディじゃないですか？ちょうどいいですしこれ上げます」

王蛇のカードデッキをわたす。契約モンスターがベノスネーカーしかない代わりに、ガードベントとストレンジベントとフリーズベントとサバイブ入れているからな。チート乙ですwww

「?これなんスか?」

「カードデッキ、使い方教えてやるよ・・・」

いやエアリアルボード展開しないで連れ去るなウエーンドイイイ!!

!!!!!!

side out

データ16 複・製・少・女 後編（後書き）

柄に合わず伏線を張りました。全部回収します

データ17 進・化・人・類（前書き）

進化した人類・・・ライダーファンの皆さまなら分かる・・・
かも

データ17 進・化・人・類

Side 玲人

「もしもし・・・彰一か？」

『何だ玲人か・・・んで、お前から連絡とはな・・・』

「彰一、ミッドチルダに來い・・・お前の出番だ」

『分かった』

俺は彰一の言葉を聞いてから連絡を切った。

光月彰一・・・仮面ライダーアギト。進化した人類とでも言うべき存在。奴と出会ったのは・・・管理外世界の一つだった。アルハザードへ行った直後に訪れた

『お前は？俺は神山玲人』

『ああ、僕は光月彰一だ。よろしくな』

俺たちはそうして出会い、今に至るわけだ。あの予言の進化した人類というのは光月彰一だと俺は考えた。さらに俺が開発したライダーシステムにライダーズギア、そして聖夜の扱うガイアメモリ・・・あれを使えばナンバーズ強化・・・さらに副作用をなくせばいい・・・ならライダーズギアは除外だ。なら・・・龍騎とオーデインのカードデッキは伝家の宝刀だな・・・

「玲人、なんか玲人さんに会いたいわって人がいるっスよ」

何故ウエンディが俺の家に居るのは気にしないでくれ

「お・・・きたのか」

俺が出迎えに行くと、そこには、完全学生の少年がいた

「何故その服？」

「いや・・・この服しかなくて・・・久しぶりだな」

「いや・・・2か月ほどしかたっていないけどな・・・読んだのはこういう理由があった」

俺は彰一に予言の説明をする。案の定、彰一は驚いた。さらにそのあとに変わった予言の内容を説明すると、有り得ないという表情でいた。

「分かった。俺もしばらくはミッドに居るから」

「よろしく頼むぜ」

side out

データ17 進・化・人・類（後書き）

光月彰一 男 16歳

容姿：とあるの上条当麻そのまんま
詳しくは次回で

光月彰一のデータ

光月彰一

性別：男

年齢：16

容姿：上条当麻のまんま。服もそのまま

能力：仮面ライダーアギトへの変身能力

説明：とある世界で玲人が出会った戦士。玲人とは親友であり、良き理解者でもある。管理局の事は、「下がしつかりしてるが、上が腐っている」と表現している。零時や炎忌、奏などとの面識はない

仮面ライダーアギト：原作とほとんど同じ

変身ポーズ：右腕をフォーゼの変身ポーズのような感じにして、オルタリングを出現させる。さらに腰の両脇のスイッチに両手を触れ、「変身!」と叫んで変身する

光月「というわけで紹介終了!!!」

霊宮「簡潔にまとめたな」

光月「文字数やばくね?百文字もないと思う」

霊宮「この無意味な雑談をする必要もないし、劇場版仮面ライダーアギトについて語ろう」

光月「氷川さんがよかったな。G3-Xとしてじゃなく、氷川誠として戦ってG4に勝つのがよかった」

霊宮「完璧ネタばれだな・・・俺もそこに感動した。シャイニングフォームも格好よかったし。残念なのがストームフォーム出てなかった」

光月「つーわけで次回を楽しみにしてくれ。明日か明後日には更新するかもしれないから」

霊宮「というわけで次回」

データ18 旅・人・登・場

N O s i d e

とある森林に、神山兄弟に似た青年がいた。髪が緑色で、瞳が青色の青年、葉音流はおんりゅうは、自分の着ているコートの中からディケイドライバーの白いところを青に塗りつぶしたディケイドライバーに似た、ディロンドライバーを取り出した。そして、彼の周りにはいつのまにか怪人が10体ほどいた

「……邪魔」

そして、ディロンドライバーを腰につけると、バックルを開いて、一枚のカードを取り出すと、それをバックルの中に入れる

「変身」

そして、バックルを勢いよく閉じると

『K A M E N R I D E D E R O N D O』

灰色のスーツに身体が包まれ、黒色のプレートが頭に突き、身体の大部分が深い青色に染まる。そして、複眼が緑色に染まる。簡単に説明すると、ディケイドのマゼンタ色のところを深い青色にすればいい。これが

「ディロンド!!!!貴様を排除する!!!」

「………やってみれば」

そして、ディロンドがライドブッカードに似た、ロンドブッカードを取り出す（ライドブッカードの白いところを青色に塗りつぶしたもの）。そして、ソードモードにすると、1枚のカードを取り出す

『ATTACKRIDE SLASH』

「・・・斬・・・」

そして、青い斬撃「ディロンドスラッシュ」を発動すると、2体を一気に切り裂く。そして、近づいてきた3体目のオルフェノクに蹴りを入れると、袈裟に切り裂き、カードを一枚取り出し、バックルを開いてスキャンする

『KAMENRIDE ACCEL』

そして、ディロンドは、仮面ライダーアクセル・バイクフォームにカメンライドすると、ロンドブッカードを元に戻して、一枚のカードを取り出しスキャンする

『ATTACKRIDE ENGINEBLADE』

スキャンしたのは、アクセルの専用武器のエンジンブレードを呼び出すカード。そしてエンジンブレードをオルフェノクに振りかぶって切り裂き、さらに重量に力を加えて半分に切り裂いて爆発させる。さらに、ドーパントが走り込み、蹴りを後ろから浴びせる

「つく・・・さつさと決めるか」

そして、戦闘中にスキャンしたものと違うカードを取り出すと、エンジンブレードを地面に突き刺してスキャンする

『FINAL ATTACK RIDE ACCEL』

「・・・死ね」

そして、アクセルの必殺技『アクセルグランツァー』を発動させるため、ドーパントを蹴りあげて、自分も蹴りあげたドーパントより高くジャンプすると、右足で蹴りを入れる。

「ぎゃあああ！！！！」

ドーパントが爆散した後、ディロンドアクセルはディロンドに戻る。その隙についてイマジンが迫ってきてラリアットをするが、それをディロンドは軽く避けると、後ろに居たヤミーにロンドブッカー・ガンモードで銃撃をして、一枚のカードをスキャンする

『ATTACK RIDE BLAST』

そして、その場に居た、ヤミー、グロンギ、アンノウンの3体を巻き込んで、『ディロンドブラスト』を決めると、ロンドブッカーをソードモードにして、イマジンに斬りかかる。さらに残りの3体が加勢し、ディロンドは蹴り、殴りの連打を受けて後ろに少し下がる。が、二枚のカードを取り出し、一枚目のカードをスキャンする

『ATTACK RIDE ILLUSION』

このカードの効果でディロンドが三体に分身すると、もう一枚のカードを本物のディロンドがスキャンする。そのカードも、普通のカードと違い、ディロンドの紋章が書かれている青色のカードだった

『FINAL ATTACK RIDE DERONDO!!』

「終わり」

そして、三体のディロンドがジャンプして、それぞれ十枚の青色のカードをぐりぬけて、三体の怪人に『ディメンションキック』を放つ。そして、三体の怪人は爆発し、ディロンドは一人に戻った。そして、ディロンドは変身を解くと、流の姿に戻った

「・・・次の世界へ行こう」

そして、彼は銀色のオーロラを出現させると、その中をぐりぬけていった

葉音が次の世界へ行っている間に、機動六課隊舎では、とある二人の男が話していた、しかし、その二人は本来はいないはずの、転生者であった

（あのリュウガとかいうの・・・仮面ライダー龍騎に出てたリュウガだよな？何でこの世界に居るんだ？それに管理局を敵とみなしていたし・・・）

と、真面目に考えているのは、『ひながれさい火流裁』である。彼は転生者の中でも、テンプレチートとか俺TUEEEEEE!!とか考えてい

ない人である。でも、彼の友達で、同じ世界に転生した、銀城兄弟は、俺達TUEEE!だったので玲人に殺されています。

「それにしても・・・なんなんだ？あのリュウガは」

「君も気になっていたか・・・銀城兄弟も殺されていたしな、その際にオーズがいたらしいし、どこかの管理局の支部襲撃事件では、ブレイドとリュウガと一緒に居たとかあったしね・・・」

裁の言葉にこたえたのは『さめやまはじめ鮫帖創』であつた。ちなみに、裁の能力が『ゲートオブバビロン王の財宝』で、アンリミテッドサレイドワークス鮫帖の能力が『無限の剣製』である。まあ転生者が頼みそうなものですね（by霊宮）

「ブレイド・リュウガ・オーズ・・・本来は正義の味方のはずだろ！？リュウガを除くけれど、何で人殺しとかを「まあ・・・それが目的ですからね・・・？転生者さん」誰だ！！！！？」

「何者ですか！？」

そこに現れたのは、リュウガでもある神山零時と、ナンバーズのクアットロがいた。どうやらクアットロのIS『シルバーカーテン』で潜入していたものと見える

「神山零時ですけど・・・これを見せればわかると思いますが」

零時が突きだしたのは、リュウガのカードデッキ、そして、腰にはVバックルが巻かれていた。それをみた裁と創が眼を見開いて驚いていた

「そう、零時ちゃんがリュウガなの」

クアットロが能天気になんて言うって、零時はドラグブラッカーを呼び出すと、クアットロと一緒にまたがり、転生者言い放つ

「貴方達みたいな奴らに・・・負けるつもりはありませんから」

宣戦布告。零時はそういうとドラグブラッカーで硝子をたたき割って外へと出て行った。

「よかったのかしら？リユウガの事言っちゃって？」

「いいんですよ・・・それに、旅人が来たようですね」

零時が下を見ると、そこには葉音がたっていた

「ここが次の世界か・・・！！？ドラグ・・・ブラ・・・ッカー？」

side out

データ19 旅・人・視・点（前書き）

今回も葉音視点です

データ19 旅・人・視・点

side葉音

今回の世界は・・・少し特殊なようですね。まあ僕にはあまり関係ないですけど。それに、服装が制服っぽいですし・・・胸ポケットには・・・？管理局？それにこの施設内清掃員・・・結局こんな役回りなんです僕は。とりあえず目的の場所は・・・ここかよorz

「・・・でかい・・・」

とりあえず中に入り・・・ここからはすごいつまらないので割愛。言うところだけ言わせて貰うと、作業着きて掃除、掃除、掃除・・・
・・・やんなっちゃいます

「・・・終わった」

僕は普段服に着替えると、外へ行く。しかし、その前に変な音が鳴る。どうやら厳戒態勢のようですね・・・なら、本業に戻りますか・・・

『KAMEN RIDE・・・』

「変身」

『DERONDO!』

そして、仮面ライダーディロンドに変身すると、鏡の中からミラーワールドにいけると思い、触れてみたが、行けずに、仕方なく一枚

のカードを取り出す

『KAMEN RIDE GATACK!』

『ATTACK RIDE CLOCKUP』

そして、クロックアップ空間に入ると、外へ出て、変な黒々とした機械の前で、ディロンドに戻ると、ロンドブッカー・ソードモードを構えて見据える

「さてと……やりあいますか」

そして、持っているソードモードのロンドブッカーで敵を何連続で切り裂き、鉄の塊へと変える。そして、今度はガンモードにして、一枚のカードを装填し、さらにもう一枚取り出す

『ATTACK RIDE ILLUSION!! BLAST!!』

そして、5人に分身すると、ディロンドブラストを5人分一気に発射し、軽く残っていた機械の九割を削り落とす。さらに、分身が解けると、もう一枚の、ライダーカードを取り出す。このカードは、世界を旅していたころに最初の仲間となったライダー。異形と罵られ続けられながらも、愛する人間のために正義を貫きとおした男……草槍リョウこと、仮面ライダーギルスに出会ったときに手に入れたカード

『KAMEN RIDE GILLS!!』

そして、仮面ライダーギルスにカメンライドすると、肉弾戦で残り

の機械に、手刀、蹴り、殴りをする。そして、最後の機会が飛びかかってきたのを、蹴りで吹っ飛ばして終わらせる。

「リョウさん……力を貸してくれてありがとうございます……」

そして、……はい、グリコオオオオ！！！！……なんか銃口っぱいもの突き付けられてね？なんか殺気がビンビンに……よし、落ちつけ、僕、COOLに構える……キャラ崩壊していたじゃないか……

「……誰？」

よし、ステルスを………無理イイイイイ！！！！怖いよ！？俺が出会った中でもあの暗黒物質ダークマターの卵焼き（最終兵器）を作る奴よりも怖い……

「……すみません……」

「お前は……確か新人の清掃員だったな………どういうこときかせて貰う？」ははははは！！！！……そうはいかないんだよね」
お前は……結城に……時空犯罪者の神山玲人！？

「御免なさい……玲人さんに言われて……」

「あんた、ここは俺達が何とかしてやつから行け」

「……助かった……」

『ATTACK RIDE STEALTH』

そして、ステルスで逃げると見せかけ・・・幼女を気絶させる。そしてステルスを解くと、神山玲人と呼ばれた男の人と、結城と呼ばれた女の人のほうに向きなおり、軽く一礼をすると、変身を解く

「・・・葉音流・・・君たちは・・・？」

「ま、積もる話は、こっちに来てから話せ。つつか俺に似てるな？」

よく言われる・・・

side out

葉音流の説明

名前：葉音 流

性別：男

年齢：17

性格：無口で、あまり感情を表に出さない。

説明：仮面ライダーディロンドに変身し、戦う青年。いままで11の世界を渡っていて、ライダーカードはそれぞれの世界で手に入れたもの。

容姿：神山玲人に似ていると本編で言っていた通り、鏡音レンの髪を緑髪にして、瞳を青色にした感じ。

巡った世界

「葉音の世界」

葉音の世界。崩壊寸前だったのを葉音だけ脱出し、その際にディロンドの力を手に入れる

ギルスの世界

仮面ライダーギルス/草薙リョウの世界。ここで、ギルス系統のカードFFR・ギルスのカードを手に入れる

ナイトの世界

仮面ライダーナイト/秋原レンカの世界。ここで、ナイト系統のカードとFFR・ナイトのカードを手に入れる。ちなみにレンカは女ね

カイザの世界

仮面ライダーカイザ/草加マサトの世界。ここで、カイザ系統のカードとFFR・カイザのカードを手似れる

カリスの世界

仮面ライダーカリス/相山ハジメの世界/ジョーカーの世界。ここで、カリス系統のカードとFFR・カリスのカードを手に入れる

威吹鬼の世界

仮面ライダー威吹鬼/泉イオリの世界。ここで、威吹鬼系統のカ

ドと、F F R・イブキのカードを手似れた。

ガタツクの世界

仮面ライダーガタツク／鏡谷アラタの世界。ここで、ガタツク系統のカードと、F F R・ガタツクのカードを手に入れる。

ゼロノスの世界

仮面ライダーゼロノス／桜山ユウトの世界。ここで、ゼロノス系統のカードとF F R・ゼロノスのカードを手に入れる

イクサの世界

仮面ライダーイクサ／戦王ケイスケの世界。ここで、イクサ系統のカードとF F R・イクサのカードを手に入れる

アクセルの世界

仮面ライダーアクセル／照井タツキの世界。ここで、アクセル系統のカードとF F R・アクセルのカードを手に入れる。

バースの世界

仮面ライダーバース／伊達シンタロウの世界。ここで、バース系統のカードとF F R・バースのカードを手に入れる

ネガ・葉音の世界

葉音の世界のネガバージョン。ディケイドのネガの世界と同じような世界ではあるが、ライダーの世界にありながらも、ライダーを信じて、ライダーを怪物と言って迫害している世界、ここで、ディロンド専用のケータツチを手に入れる

ディロンドのスペック

身長：192?

体重：83kg

パンチ力：6t

キック力：11t

ジャンプ力：ひと跳び35m

走力：100mを4.5秒

ディロンドのカードはディケイドとほとんど同じ
以上

データ20 剣・王・覚・醒（前書き）

奏のブレイドが原作と同じになります

データ20 剣・王・覚・醒

side 玲人

「よし……ブレイバツクル完成した」

俺はラウズアブソーバーでは持ち運び不便じゃね？という理由と、流の知識から得たブレイバツクルの正確な情報をもとにして、作り上げたのがこれだ

「あの……できあがりしましたか？」

「ああ、出来た。ブレイラウザーに通せるカードをラウズカード全部に変更、さらに強度を上げ、etc……。まあとりあえず良くなった」

「……面倒くさがり……」

流がそう言ってきたが、流して奏にブレイバツクルを渡して研究室から追い出す。そして、流から渡された一枚のカード……。流の持つ他のライダーカードと違い、像が描かれていなく『GENOCIDE』と書かれているカードに向き直ると、また解析を始める

「へえ……面白そうじゃない」

side out

side 零時

「威井伊井伊井伊！！！！ヴィヴィオが・・・六課に転移だと！？」

よし、スカさん締めるぞ。

「違うっスよ。ウーノ姐がミスっただけッス」

・・・変更。ウーノをとOHANASIする必要があるそうだ・・・え？後でノーヴェとセインがおびえてる？NANDATOOO
OOOOOOOOO！！！！！！

「すみませんでした」

「何でいきなり土下座すんだよ！？」

そうノーヴェに突っ込まれた。そして・・・僕は気付いた！！！！六課をつぶせ、ヴィヴィオを奪還し、六課に大打撃を与え、転生者どもにひと泡吹かせられる

「みなさん・・・と言ってもウエンディだけだけど・・・

六課を襲撃するぞ！！！！」

「そうッスか・・・ってエエ！？無謀すぎッスよ！！？」

「いや、ディエチに頼んで・・・奇襲して、ミラーワールドからコンニチハして、ヴィヴィオを奪還して、幼稚園いれて、卒園まで見守るだけだよ！？」

とりあえず逝くことに決定。字は違うけれど気にするな！

s
i
d
e
o
u
t

データ20 剣・王・覚・醒（後書き）

というわけでヴィヴィオが聖王のゆりかごを起動するために奪還されず、零時の独断により、奪還されることになりました！

データ21 六・課・襲・撃

side 炎忌

「…………おいでませ六課隊舎…………」

「「誰に言っている？（んですか？）」「」」

「いや、すまん」

俺たちは……クアットロのシルバーカーテンを使っていますが何か？ま、いいとしてよお……何故俺たちだけ？そして、今は機動六課のほとんどが交換意見陳述会でいない。つまりは……

『GENOCIDE!!』

「暴走おk」

『GENOCIDE!!!!!!』

そして、ジェノサイドに変身すると、鳥型のエクストリームメモリを呼び出すと、奏をその中にデータ化して中に送り込む。そして、ジェノサイドシャフトを肩に置くと、我先にと六課に襲撃した
side out

side 奏

（どこまでいくんでしょうか？ま、ブレイバックスを持っているので大丈夫でしょう。傍目を見ることが出来ると、なんか零時さんが

筋肉ムキムキの人に「女の敵！！死ね！！！」とか言つてボコボコにしていますし、炎忌さんは周りの壁を「ウェーイー！！！」とオンドウル教祖バりに言つて壊していますし・・・」

何かとカオスですけど、まあいいとして・・・あのカスみたいな転生者がいるんでしょうか？二人ですよ！？玲人さんはそのうちの一人、火流裁とかいうやつと戦っているみたいですけれど。あ、もう一人がいた。よし殺そう

「よ・・・つと」

「何者だ」

side out

side 第三者

「何者だ」

鮫峠が無限の剣製で作り出した干将・莫耶を構えながら、奏に言う。対する奏はブレイバツクルを腰につけ、トランプが腰を回り、ベルトを形作る。そして、ベルトにあるレバーを引くと

『turnup』

という音声が鳴り、ベルトから放たれた、オリハルコンエレメントで形成されるトランプ・・・ラウズカードのスピードスートのA「changebeetle」のカードを奏が走ってぐりぬけると、奏の体が仮面ライダーブレイドになる

「I am the bone of my sword……」

そして、鮫帖が無限の剣製の詠唱呪文を唱えながら、奏のブレイラウザーを干将・莫耶で捌く。さらに、それを切り返すと、

「Steel is my body, and fire is my blade……」

「五月蠅いな……」

奏がそう言いながらも干将・莫耶をブレイラウザーで捌きながら蹴りを鮫帖に入れる。鮫帖はそれを必要最低限の動きで避ける。その間も詠唱呪文を常に唱えていた。そして……

「Unlimited blade works」

そして、世界が一瞬にて、砂漠のような世界へと変わる。しかし、一つだけ砂漠と違うような点は、件が無限に突き刺さっているという、だけだった。奏はそれを見ながら、ラウズアブソーバーにクインのカードを入れ、ジャックのカードをスラッシュ・リーダーにラウズする

『fusion jack』

戦いは、まだ始まったばかりだ

データ22 剣王VS贗作者の偽物

N O s i d e

「はあ!!」

「おらあ!!!!」

奏ブレイド（以下Kブレイド）が強化型ブレイラウザーで斬り、それを創が投影したエクスカリバーで防御している。さらに、創は運命を砕く（フエイト）^{アロー}弓矢という弓矢で距離をとってKブレイドを狙撃する。がそれを『トリロバイトメタル』を発動させ、身体を硬質化させ防御。

「なかなかやるんですね・・・女なのに」

「舐めた真似するんじゃないやねええええ!!!!」

それに激高した奏は二枚のラウズカードをブレイラウザーから取り出す

『k i c k』

『T h u n d e r』

「熾天覆う（ロー）七つの円環^{・アイアス}!!!!」

そして、創がロー・アイアスを投影する。避けるのではなく防御するのは何故だろうか？

『lightning blast』

「ウエエエエエエイイイイ!!!!!!」

そして、Kブレイドが飛び上がり、ライトニングブラストをロー・アイアスに真つ先に当てる。が、すぐに押し負けて、奏の変身が解けてバラバラと13枚のラウズカードが奏の周りに散らばる。

「つくううう……」

「さてと、公務執行妨害および……まあとにかく逮捕だ。ラウズカードとブレイバツクルわたせ」

倒れている奏を鮫帖は容赦なく、腹を踏みつけながら言う。そのたび、奏の口からはうめき声が漏れている。そして、鮫帖は13枚のラウズカードとブレイバツクルを手に取り、バツクルにスペードのAのカードをいれてから、レバーを引く

『turnup』

そして、ブレイド（以下Sブレイド）に変身する。そして鮫帖は固有結界を解くと、1枚のカードを取り出し、そこらへんに投げ捨てる

「さてと……正義の味方の通りですね」

いつもの口調に戻る鮫帖はジェノサイドに走っていく。それを奏はよろよると起き上がりながら鮫帖の捨てたカード……カテゴリーKのカードと予備のブレイバツクルを取り出し、バツクルにKのカードをいれ、腰に当てる。そしてバツクルからランプがベルト

を形作り、奏はバックルにあるレバーを引く

「変身」

『turnup』

そして、スペードのカテゴリKのオリハルコンエレメントをくぐりぬけると、奏の姿はブレイド・キングフォームに似ている姿になった。少し違う点は、本来、奏が変身するキングフォームにあるアソットの意匠がないところだった

「本来のキングフォーム、使うの初めてだけど、いつか」

そして、重醒剣キングラウザーを呼び出すと、Sブレイドに向かって走り出し、キングラウザーで切り裂いた

「があ！？何故ブレイドのキングフォームに・・・」

「いや、これが本来のキングフォーム。カテゴリKとだけ融合した状態を含みますけれど。何か？」

実はこの形態、無理矢理ブレイバックルを使って変身している形態でもある。だって、カテゴリAのブライムベスタなければ本来はブレイドに変身出来ないんだぜ？そして、Sブレイドからブレイラウザーを奪い取ると、ブレイラウザーから11枚のカードが飛び出し、さらにSブレイドのブレイバックルからもAのカードが飛び出し、Kブレイドの周りをまわって、本来のキングフォームへと姿を変える。鯨帖は投影しようとするが、融合係数が低いはずなのにブレイドに変身したため、カテゴリAのカードに何故か魔力回路を全て奪われてしまったのである

「さてと、死ね」

そして、Kブレイドはキンググラウザーにギルドラウズカードをスキャンする。しかし、何故か全てのカードがキンググラウザーに入って行く

♠ spade two

♠ spade three

♠ spade four

♠ spade five

♠ spade six

♠ spade seven

♠ spade eight

♠ spade nine

♠ spade ten

♠ spade jack

♠ spade queen

♠ spade king

『spade ace』

「はああ……」

そして、Kブレイドがキンググラウザーを一振りすると、スピードス
ートのアンデット全てが出てくる。そして、それぞれが鯨帖を攻撃
していく。そして、最後に

「が……ふあ……」

『あなたみたいな愚かな人に、従うわけないでしょう』

イーグルアンデットがそう言い、鯨帖に蹴りを加えて空中に上げる。
さらに、

『本当だ。私は奏嬢だから協力しているだけだ』

カプリコーンアンデットがそう言いながらストレートパンチを鯨山
にくらわせ、壁にめり込ませる。

『だって、奏お姉ちゃん優しいし』

コーカサスアンデットは、オールオーバーという大剣を鯨帖に突き
刺し、無造作に、鯨帖の死体を放り投げる。そして、3体のアンデ
ットはラウズカードに戻り、ブレイドのブレイグラウザーへと戻る。

「私の……か……ち……」

そう言いながら奏は変身が解除され、その場に倒れた

データ23 世界の断罪者VS王の虚像

N O s i d e

燃え上がる機動六課の中、すでに六課の隊員や、炎忌達は抜けだした中に、裁と葉音が向かい合って立っていた。

「・・・君は、そんな借り物の能力で僕に勝てると思っているの・・・？」

「五月蠅い。それに俺にはこいつがあるからな」

そう言つて裁は、恐らく王の財宝から出したと思われるディケイドライバーを腰につけ、ディケイドのカードを取り出し、ドライバーのバックルを開く。葉音も同じ行動をやった。しかし、ディロンドライバーとディロンドのカードという差異は存在するが

『『K A M E N R I D E・・・』』

「「変身」」

『DECADE!』』

『DERONDO!』』

裁の変身したディケイド（以下Sディケイドと呼びます）とディロンドが向かい合って、激突した。そして、葉音が一枚のカードを取り出してバックルに入れて読み込む

『K A M E N R I D E C U L L I S ! ! 』

ディロンドはカリスにカメンライドすると、さらにもう一枚のカードを読み込む

『A T T A C K R I D E C U L L I S A R R O W ! 』

そして、カリスアローを召喚して、そのカリスアローについた刃で攻撃する。Sディケイドはそれをライドブッカードで防御し、逆にパンチをDカリスへと当てる。

「つく・・・」

Dカリスは一度後退すると、また、カードをバツクルに入れて読み込んだ

『A T T A C K R I D E T O R N A D O ! 』

そして、カリスの使用する、『トルネードホーク』を発動させるとそれをSディケイドに当て、さらにもう一枚カードを読み込む

『A T T A C K R I D E C H O P ! 』

さらに、トルネードに捕らわれているSディケイドめがけて『ヘッドチョップ』を当て、大きく吹っ飛ばす。さらに、もう一枚カードを読み込もうとするが、それをロンドブッカードにしまい、ディロンドはその場から飛び退く

「!?!?有り得ない・・・」

「は！有り得ないってことはあり得ないんだぜ！！グリードもそう言っていた」

そう、Sディケイドは本来使えないはずのカード、『カイジンライド』を使い、フィロキセラワーム、ユートピア・ドーパント、グリードのカザリを呼び出していた。劣勢の葉音は、まったく動じずに3枚のカードを取り出す

1枚目は、仮面ライダーガタックと銀髪の青年が映っているカード。

2枚目は、仮面ライダーアクセルと赤髪の少女が映っているカード。

3枚目は、仮面ライダーバースと黄色の髪に、それぞれ蒼、赤のメッシュ入っている青年が映っているカード

「何だよ、そのカードは・・・」

「今一度お前を倒すために協力してもらおう」

そう言つて葉音は、バツクルに3枚のカードを装填する

『CALL RIDE GATCK!! ACCEL!! BIRTH!!』

そして、カードを装填し、発動すると同時に蒼、赤、黄のオーロラが現れ、その中からカードに映っている者たちが出てきた

「何だよ、葉音・・・呼び出してさ」

「そうだぜ、俺は今までゲーセンに居たっていうのにさ・・・」

「何だよ・・・」

上から、ガタツクこと「鏡谷アラタ」、アクセル「照井タツキ」、
バース「伊達シントロウ」が葉音に文句を言う

「仕方ないだろ・・・あいつがせこいんだから」

葉音はほかの人物と話す口調とは打って変わり、無口ではなくなっていた。それにSデイケイドは驚き、ケータツチを取り出し、ファイナルカメンライドしてコンプリートフォームへと変わる

「何なんだよ！？こんな奴ら原作にはいなかったはず！？！？」

「さてと・・・俺もやりますかね」

そう言っただけでシントロウがバースドライバーを出し、セルメダルをバースドライバーの投入口に入れる。それに反応したのかアラタもガタツクゼクターを呼び出し、タツキもアクセルドライバーとアクセルメモリを取り出す

「変身」

『カポーン』

そしてシントロウはバースに変身すると、カザリに向かってストリートパンチを繰り出し、後退させる。

『ACCELER!!』

「変・・・身!!」

そして、タツキはアクセルドライバーにメモリを差し込んで、仮面ライダーアクセルに変身する。

「変身!!」

『H E N S I N c h a n g e s t a g g e r t l e』

アラタも、ゼクターをライダーベルトにつけ、直接ライダーフォームへと変身する。

「さてと・・・俺も行きますか」

データ24 偽物勝利無

N o s i d e

「オラよ!!!」

Dカリスが召還した3人のライダーにより、Sディケイドは押されていた。ガタツクがフィロキセラワームと戦い、アクセルブースターがユートピアドーパントに対し優勢、カザリもバース・ディに少し押されていた。子の掛け声はバースがドリルアームをカザリに向けて叩きつけ、カザリからセルメダルが飛び去る際の言動である

「なぜだ!!!なぜ怪人たちが押されているのだ!?畜生・・・ならこい」おおと・・・残念だけどそれは通用しないよ!!!」つくう・・・」

そして、Sディケイドがさらに発動しようとしていたカイジンライドをDカリスが妨害し、カリスアローの刃の部分でSディケイドは切り裂かれ、うめき声を上げる。一方のガタツクはフィロキセラワームをガタツクダブルカリバーで押さえつけ、空中に放り投げた

『o n e t w o t h r e e』

「ライダーキック!!!」

『r i d e r k i c k』

空中に放り投げられたワームとガタツクがクロックアップするのは同時に、その空間の中ではガタツクがライダーキックをフィロキセ

ラワームに当てて、ワームを倒したところだった。そして、Dカリスがデイルンドに戻り、一枚のカードをバツクルに装填する

『FINALFOAM RIDE GATTCK!!』

そのカードの効果により、ガタツクはガタツクゼクターへと変形し、カザリめがけて突進する。さらに、バース・デイを解いたバースがその上に飛び乗り、ブレストキャノンを発動させ、セルメダルをベルトに2枚入れる

『CELL BURST』

「大判ぶるまい!!!」

ガタツクゼクターの上から放たれたセルバーストは、カザリに直撃し、カザリを爆発させる。しかし、セルメダルは飛び散らなかった。バースはそれに落胆していた。やはりセルメダルを使うライダーシステムだからねえ・・・

「畜生!!!!いつもこいつも使えねえ奴らばかりだ!!!!」

Sデイケイドはそう言いながらユートピアのほうへ加勢し、アクセルをつぶすために攻撃し始めた

「がはあ!!!!っち、ブースターでもさばききれねえぞ!?!」

アクセルブースターはそう言いながらもエンジンブレードで攻撃をさばき、避けたりしながらエンジンメモリを取り出し、エンジンブレードに装填する

『ENGINE!! MAXIMUM DRIVE!!』

「おらよー!!!」

そして、Sディケイドめがけてエースラッシャーを放つが、Sディケイドはユートピア・ドーパントを盾代わりにして防御し、ユートピア・ドーパントは爆発する

「お前!!! 仲間を盾にするのかよ!!!」

「はあ? こいつらは道具だ」

「~~~~!! てめえ!!!」

アクセルの言葉にSディケイドがそう返すと、アクセルがSディケイドめがけて突っ込んできた。が、それをライドブッカー・ソードモードでさばきながら、カードを一枚装填する

『CRAZY RIDE』

「!!! タツキ、離れろ!!!」

葉音がそういうと、アクセルブースターはその場から飛び上がって回避する。そしてSディケイドはコンプリートフォームへと進化する。が、本来ライダーのカードがある場所には空白のカードになっていた。

「何なんだよあれは・・・」

「葉音、何かわかるか?」

「ああ・・・あれはこう呼称すればいい。ディケイドクレイジーフォームとな」

タツキが驚愕し、アラタが葉音に問いかけると、葉音はディケイドクレイジーフォームと呼称した。

「こんなときにハイパーゼクターがあればいいのによー!!」

アラタがそう言いながらも両方の腕だけをプットオンしてSディケイドCFへとガタックバルカンを連射していた。そして、葉音がこう、一言を紡ぐ

「奥の手だ。コンプリートフォームを使う」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1725x/>

空の刀が目指すは雷の神 外伝 正義の殺戮者

2011年11月20日23時26分発行